
◆ 目次 ◆

- 1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶
 - 2 2021 年 11 月・12 月の休館日
 - 3 領事便り
 - (1) 日本へ入国・帰国される方々へ
 - (2) 領事窓口の受付時間
 - (3) PEI 州シャーロットタウン領事出張サービス開催予定のお知らせ
 - (4) 2021 年在留状況確認調査 ご協力をお願い
 - (5) モンリオール日本語センターからのお知らせ
 - 4 広報・文化便り
 - 5 政治
 - 6 経済
- * * * * *

1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶

早いものでこの原稿が皆様の目に触れる頃には私のモンリオール生活も一か月になります。

まだまだ公私ともに落ち着いたと言える状況にはありませんが、毎日いろいろなことを見聞きし、へ〜と驚くこともあれば、なるほど…と頷くこともあり、自分がいかにこれまでカナダのことを知らなかったかを思い知らされることがしばしばです。

カナダ人外国人を問わず少しずつ当地の方々と会い始めていますが、今年は暖かいね〜というのは多くの方から聞かされます。

-40℃に備えて、これだけはまず調達せねば！慌てて厳寒期用重装備を買いに走った身にとっては、まだまだこれからであることはわかっているものの、少々拍子抜けの感じます。折しも英国グラスゴーで COP26 が開催されていますが、地球温暖化を肌で感じています。

当地に住んでみての一番の衝撃はやはりケベック訛りのフランス語（Quebecois）です。以前ベルギーのブリュッセルで勤務した際、オランダ語系住民の一風変わったイントネーションのフランス語を耳にしたり、数の数え方を中心にフランスとは異なる語彙を頭に入れるのに努力を要したりしました。しかし当地の訛りの強さと独特の語彙は想像以上で、頻繁に電子辞書のお世話になるのはもちろんのこと、そこに（カナ

ダ)の注釈付きですら載っておらず(つまり文脈からしてどう考えてもフランスとは異なる意味で使われているものの、辞書が「沈黙」しているので完全には意味が分からない)、総領事館の秘書やアシスタントに質問を飛ばす毎日です。それ以前に、たとえばテレビを見ていて、キャスターの発言はともかく、街の声などは単語自体が聞き取れないこともあって愕然としています…。

今後地方に出張して地元当局者と面談する際は一体どうなってしまうのか、まさか面前で辞書に頼るわけにもいかず、とにかく文脈で判断する推理能力と言いますか、応用力をつけないといけないと痛感しています。

恐らく当地に来たフランス語話者の誰もが通る道だとは思いますが、この経験は恐らく世界中のどの都市・地域でよりもユニークなものではないかと思い、面白い街に来たなあ…と感慨に浸っています。これはインド英語(主としてヒンディー語の影響を受けたイントネーションが強烈)やSinglish(シンガポールで話される中華風?英語)の比ではない!というのが、これまでそれなりにいろいろな国で勤務したり出張したり、彼らと議論を戦わせた経験から導かれる素直な感想です。

これ以外にもお話ししたいことは多々あるのですが、次の機会を待ちたいと思います。引き続きモントリオール総領事館をよろしくお願いいたします。

2 2021年11月・12月の休館日

- 11月23日(火) 勤労感謝の日(日本の祝日)
- 12月24日(金) Christmas Eve
- 12月29日(水)～31日(金) 日本国行政機関の休日
- 土・日曜日

3 領事便り

(1) 日本へ入国・帰国される方々へ

新型コロナウイルス感染症の水際対策により、日本への入国・帰国前から事前の準備が必要です。詳しくは当館HPをご覧ください。

【当館HP】

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html

(2) 領事窓口の受付時間

当地における新型コロナウイルス感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニー

ズに適切にお応えしていくため、昨年4月1日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

●領事窓口の受付時間

10:00～12:30、13:30～15:00

※9:00～10:00 及び 15:00～17:00 につきましても、電話による照会（緊急の場合）、メールによる照会に対応しております。

エレベーターで33階のボタンを押すと、総領事館のあるフロアへお越しになれます。

(3) PEI 州シャーロットタウン領事出張サービス開催予定のお知らせ

2021年12月15日（水）、プリンスエドワードアイランド州シャーロットタウンで、領事出張サービスを開催する予定です。

なお、領事出張サービスは完全予約制としています。ご利用を考えている在留邦人の皆様におかれては、まずは当館にご連絡をお願いします。

詳しくは以下のホームページをご覧ください。

【当館 HP】

<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday.html>

(4) 2021 年在留状況確認調査 ご協力をお願い

9月28日にEメールでご案内しておりますとおり、当館では現在、管轄地域内において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や、皆様に必要な情報を提供するための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認する作業を行っています。

詳しくは以下のホームページをご覧ください。もしまだお手続きいただけていない場合は、どうかこの機会にお願いいたします。

<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/files/100239962.pdf>

(5) モントリオール日本語センターからのお知らせ

●課外プログラムのご案内

弊センターでは、より多角的な日本語教育と文化継承を願い『課外』プログラムを始めました。

カナダ全国の日本語を学習している生徒さんにご参加いただけますので、お友達とお誘いあわせください。たくさんのご参加お待ちしております！

詳細はこちらから→ <https://bit.ly/391h5nb>

●カナダ全土でのオンラインスピーチコンテスト参加者募集のお知らせ
日本語で話す自信をつけたいお子様のために【カナダ・こどもスピーチコンテスト】
に応募してみませんか？

賞金：低学年 40\$ 高学年 60\$ 中高等部 80\$ +各景品
参加賞もあります！

詳細はこちらから → <https://tinyurl.com/256w5b2z>
多数のご応募を心よりお待ちしております！

●モントリオール日本語センター 2022 年度新入生募集
モントリオール日本語センターでは、2022 年度 4 月開講の新幼児 1 クラスの募集をしています。
(対象年齢：2018 年 4 月 2 日～2019 年 4 月 1 日生まれのお子様)

当センターの主旨をご理解いただくために、当校ホームページ内の『基本概念』及び『センターの決まり』をご一読いただき、下記のグーグルフォームよりお申込みください。締め切りは 12 月 23 日（木）です。

・日本語センターHP
<https://japanesecenter.com/>

・申し込みフォーム
<https://docs.google.com/forms/d/1NSkrli28S4VSZvErZJ0htkQSm6s9GNa5L8im-fUXAfw/edit?usp=sharing>

また、他学年の新規入校生も随時募集しておりますので、同フォームよりご応募ください。

ご不明な点は、モントリオール日本語センターEmail までお問い合わせください。

info@japanesecenter.com

4 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（ culture@mt.mofa.go.jp ）

までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) 当館公式 YouTube チャンネルの開設

当館公式 YouTube チャンネルを開設しました。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://www.youtube.com/channel/UC5Fc52skP5w8otfowcN30ag>

当館ツイッターアカウントも開設しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

(2) CORIM 主催：川村泰久駐カナダ日本国大使による講演会（英語）

“Japan-Canada: Strengthening the Rule of Law and Our Common Interests in the Indo-Pacific Region”

日時：12月1日（水）

時間：11時半～13時45分（オンライン：13時から）

会場：Sofitel Montreal (Picasso Room)

1155 Sherbrooke Street West, Montreal

事前予約：11月30日17時まで

<https://www.corim.qc.ca/en/event/948/2021-12-01-yasuhisa-kawamura>

(3) 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。

1月18日より隔週月曜 19時～21時

参加費：無料

問い合わせ・申込先：佐藤祥子氏 sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

●シネマニア映画祭

日本関連の映画も上映されます。

オンライン：11月2日（火）～21日（日）

<https://www.festivalcinemania.com/fr>

●バーチャル生け花展「(re)connect create celebrate」

在カナダ日本国大使館と小原流生け花オタワ支部の共催で、11月21日(日)までバーチャル生け花展「(re)connect create celebrate」をオンライン開催中です。

https://www.ca.emb-japan.go.jp/itpr_en/Virtual_Ohara_Ikebana.html

●国際交流基金トロント日本文化センター主催(オンライン)イベント

日本語教師向けにワークショップや情報交換会が随時開催されています。

<https://jftor.org/language/teachers/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

5 政治

(1) ケベック(QC)州

・10月4日、ジロー(Nadine Girault)州国際関係・仏語圏大臣兼移民・仏語化・統合大臣は数週間の休養から職場に復帰するも、27日、小規模手術のため再び休養へ。

・10月13日、州政府は、ロサンゼルス州政府事務所を州政府代表事務所(delegation generale)に格上げ。現同事務所代表のPhilippe Huneault氏が州政府代表に就任する。

・10月19日、ルゴー政権は、カナダ選挙管理委員会が発表した、2024年連邦選挙区再編成計画に反対。計画によれば、全体議席数が338から342に増える際にQC州の議席数が78から77に減る。

・10月19日、州議会の新会期開始。総選挙を1年後に控えるルゴー州首相は、様々な改革実行のため州の団結を呼びかけ。20年以内の75歳以上人口倍増に備え施設から在宅介護への転換、若者の卒業資格取得率を現在の82%から90%に引き上げ、輸入製品に代わるケベック州産品振興のための企業支援、建設・IT・エンジニアリング分野に10万人の有資格労働者雇用とそれのための移民受け入れ強化、電気交通産業の一大集積地づくり、2030年までに1990年比で37.5%の温室効果ガス削減、2050年にカーボンニュートラル達成等に言及。

・10月21日、州政府は、2025年までに子供の保育施設受け入れ能力を保育料補助付きで37000人増やす計画だが、労働力不足が叫ばれる中、保育士17800人の補充が課題。

・10月22日、QC州のロベルジュ(Jean-Francois Roberge)、仏のブランケ(Jean-Michel Blanquer)両教育大臣は、特定の人物、作品、言動等を一方的に否定、糾弾して排除しようとする「キャンセルカルチャー」の動きに若者が対抗できるようにするために、民主主義教育がかつてないほど重要であると訴え、それぞれの州・国の新聞に共同公開書簡を発表。両大臣は「米大学の特定のキャンパスから直輸入され、民主主義の基盤である尊敬と寛容の価値観からかけ離れたイデオロギーと方法」を非難し、最近発覚した、ON州の一教育委員会が数千冊の焚書と「炎による浄化の儀式」を行った2019年のできごとに直接言及。

・10月28日、州政府は、2022年の移民受け入れ目標を49500～52500人としているが、コロナ禍で受け入れできていない18000人を含めると受け入れ人数は最大70500人となる可能性がある。

・10月29日、ブレ(Marguerite Blais)州高齢者・介護者担当大臣は、心身の疲労を理由に休養を発表。

(新型コロナウイルス関連)

・10月2日、メディカゴ(田辺三菱製薬連結子会社、本社ケベックシティ)は、日本でコロナワクチン候補の第1/2相臨床試験を開始すると発表。

・10月13日、デュベ州保健大臣は、医療サービス停止のおそれがあるとして、15日に予定していたワクチン完全接種を受けていない医療従事者に対する無給休職処分を11月15日に延期すると発表。(11月3日、同大臣は同措置実施断念を発表。)

・10月15日、医療機関におけるワクチンパスポート提示義務付け開始。

・10月15日、州政府は、11月1日より、バー、レストランにおける受け入れ人数上限と営業時間制限を撤廃すると発表。

・10月18日、州外渡航用の新たなワクチン接種証明の使用開始。カナダ国内はもちろん、米国の複数州や他の国でも通用する。

・10月27日、州政府は、学校の教職員へのワクチン接種義務付けを断念。

(モントリオール市長選)

・10月7日、プラント(Valerie Plante)モントリオール市長が率いる政党 Projet Montreal がプラットフォームを発表。主要公約は6万戸のアフォーダブル住宅(低所得者層向け住宅)建設、徒歩15分圏内に必要なサービスがある街づくり 2050年までにカーボンニュートラル達成等。

・10月8日、コデール(Denis Coderre)前市長は、4年間で5万戸のアフォーダブル住宅建設を約束。25日、同氏は、警察官を250人増員するとともに、就任100日以内にボディカメラ導入に向けた公募を実施すると公約。

(11月7日、開票の結果、プラント氏が52.0%の得票率でコデール氏(得票率37.9%)に圧勝し再選。

(2) ニューファンドランド・ラブラドル(NL)州

・10月19日、コフィン州 NDP 党首が辞任を発表。

・10月20日、州政府は、約400年前に作られた同州の紋章のデザイン変更を発表。紋章には2人の人物が赤い盾の両側に立つ姿が描かれているが、「savages(野蛮人)」の名称を、地域にかつて存在した先住民の名前「Beothuk」に差し替え、また州名に「Labrador」を追加する。

・10月25日、エヴァンズ州進歩保守党議員が離党して無所属に。

・10月30日、州のITシステム障害が発生し医療サービスに影響。(11月1日、州政府

は、第三者によるサイバー攻撃の被害を受けた可能性がある」と発表。)

(新型コロナウイルス関連)

・10月8日、ワクチンパスポート運用開始。12歳以上が対象。2週間の猶予期間を経て22日より義務付け開始。

・10月15日、州政府は、州職員へのワクチン接種義務付けを発表。12月17日までに完全接種を済ませないと無給休職処分となる。対象となるのは、公務員その他、長期介護施設、消防救急サービス、保育施設、学校、契約業者、ワクチンパスポート提示が求められる全ての場所で働く人とボランティア。

・10月23日、ブリン半島地域(ニューファンドランド島南部)の警戒レベルが3に引き上げられる。(11月5日に警戒レベルは2に引き下げされる。)

(3) プリンスエドワードアイランド(PEI)州

・10月8日、PEI大学は医学部新設を発表。PEIは医学部を持たないカナダ唯一の州。NL州のメモリアル大学と提携し2023年秋開講予定。

・10月27日、州政府は2021年気候変動リスク評価を発表。これによると、2050年までに同州では沿岸部の浸食が進み極端で厳しい天候に見舞われるようになる。マイヤーズ州環境大臣は、報告書の結果は驚くべきものではないとし、州はリスクに対応するための計画を策定していくと発表。

(新型コロナウイルス関連)

・10月5日、ワクチンパスポート運用開始。12歳以上が対象。

・10月26日、シャーロットタウン市は、市職員に対してワクチン接種義務付けを決定。11月30日までに完全接種を受けない職員は無給の休職処分に。

(4) ノバスコシア(NS)州

・10月28日、ヒューストン州首相は、今後5年間に州で卒業する全ての看護学生に雇用を保証すると発表。州では現在正看護師と准看護師700人ずつが卒業しているが、1400人の看護師不足に加え、数年以内の現役看護師の大量退職が予想されている。

(新型コロナウイルス関連)

・10月4日、緩和再開フェーズ5とワクチンパスポート運用開始。

・10月4日、州政府は、ワクチン接種義務付対象を拡大。矯正施設、保育施設の職員・ボランティアも11月30日まで完全に接種を済ませない場合は無給休職に。6日、接種義務付対象が州政府職員11000人に拡大。(11月2日、州政府は、11月15日までに1回接種済みで2回目接種を予定している場合は完全接種期限を8週間延長。)

・10月7日、ハリファックス市は、同市職員に対するワクチン接種義務付けを決定。12月15日までに完全接種を済ませない場合は無給休職に。

- ・ 10 月 27 日、州議会は、病院施設付近での抗議行動を禁止する法案を可決。
- ・ 10 月 27 日、州政府は、11 月 1 日より、国内から入州する際の隔離ルールの適用年齢を 17 歳から 12 歳に引き下げると発表。今後は 12 歳以上の隔離有無は全て本人の接種状況に応じる。

(5) ニューブランズウィック (NB) 州

- ・ 10 月 4 日、州政府は、警察が関与した重大事件捜査について、NS 州の専門チームが NB 州内で活動することで NS 州政府と合意。NB 州はこれまでも同捜査を近隣州に依頼してきたが、今回の合意はこれを正式な協定とするもの。
- ・ 10 月 15 日、フレミング州司法長官兼司法・公安大臣は、州政府が州土の一部の権利を主張する先住民との裁判に直面していることを理由に、イベント挨拶やメール署名等で先住民の土地の認識について言及する際、州への土地譲渡が承認されていないことを意味する「unceded」「unsurrendered」の言葉を使わないよう州職員に対して指示。そのメモがリークされ与野党含む複数団体個人が州政府を強く非難。
- ・ 10 月 27 日、シェパード州保健大臣は、州内で死者 6 人、罹患疑い 48 人に上る「謎の脳疾患」に関する調査の中間報告を発表。罹患者の間に関連性はないが、同疾患が新しい症候群や病気なのかについては結論を出すことはできないとのこと。最終報告書は来年公開予定。
- ・ 10 月 29 日、州内の公共サービス従事者 22000 人を代表する組合と州政府との交渉決裂に伴い、教職員や医療従事者等が所属する複数の組合支部がストに突入。州内の公立学校は閉鎖され当面オンライン授業に移行する。組合側は州民のために一定のサービスレベルを維持するとしている。31 日、州政府は、教職員 3000 人をロックアウト。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 10 月 5 日、州政府は、州政府職員に対するワクチン接種義務付けを発表。公務員、教職員、医療従事者等は、11 月 19 日までに完全接種を済ませない場合は無給休職となる。
- ・ 10 月 8 日、一部地域で 14 日間のロックダウン（サーキットブレーカー）開始。（11 月 10 日現在、モンクトンとセントジョン含むゾーン 1・2 一部で延長実施中）。サンクスギビングの 3 連休は州全域で自世帯以外の集まりが禁止される。

【各州世論調査結果（未確定分は除く）】

(1) 州政党支持率

- ・ QC 州 (レジェ (Leger Marketing) 調べ、9 月 29～30 日) : ケベック未来連合 (CAQ) 47%, 自由党 (PLQ) 20%, ケベック連帯 (QS) 11%, ケベック党 (PQ) 11%, ケベック保守党 (PCQ) 8%, その他 3%
- ・ QC 州 (アングス・リード (Angus Reid) 調べ、9 月 29 日～10 月 3 日) : CAQ 37%, PLQ 21%, QS 15%, PCQ 15%, PQ 10%, その他 2%

(2) モントリオール市長選

- ・CROP 調べ、10 月 7～16 日:コデール 26%, プラント 25%, オルネス 5%, その他 45%
- ・レジェ調べ、10 月 21～26 日:コデール 36%, プラント 36%, オルネス 12%, その他 12%

6 経済

(1) QC 州

- ・10 月 12 日、英スタートアップのブリティッシュボルト(Britishvolt)は、電気自動車向けのリチウムイオン電池工場をペカンクールに建設する。年間約 17 万台の大型電気トラックに電力が供給可能となる最大 60 ギガワット時(GWh)の生産能力を持つ工場、研究開発センター、正極・負極処理施設の建設を予定。
- ・10 月 18 日、シードル(リンゴのお酒)生産のミシェル・ジョドワン(Michel Jodoin)が日本市場初進出。伊澤総領事(当時)がルージュモン(モンテレジ地域)の同社を訪れたのがきっかけで、東京のワインスタイルズ社で取り扱いが決まった。既に 1 パレットが出荷済みで、次回出荷予定のコンテナは 120 年続く同社史上最大の輸出となる。
- ・10 月 19 日、山羊乳せっけん製造の Savonnerie Chevre-Feuille(サグネ地域)も日本市場進出。日本のパートナーに最低 3 年間、年間 2 万個のせっけん輸出契約を締結。
- ・10 月 22 日、中国による産業スパイの標的となるリスクがあるとして、2020 年に連邦政府が QC 州子会社設立を許可しなかった貨物飛行船開発の仏企業 Flying Whales(FW)は、中国航空工業集団(AVIC)の持分を買い取り連邦政府に改めて認可申請。QC 州政府は FW とその子会社 FW ケベックに出資している(それぞれ 25%と 49%)。
- ・10 月 25 日、電気バス・トラック製造の Lion 社は、Student Transportation of Canada(STC)より電気スクールバス 1000 台を条件付きで受注。STC が申請中の連邦インフラ省の助成金が下ることが条件。
- ・10 月 26 日、州政府は、モノと人の海上輸送促進のためのインフラ整備に 1 億加ドルを支出。

(2) 大西洋州

- ・10 月 15 日、大西洋州のエネルギー関連企業・団体は、大西洋地域におけるグリーン水素産業開発を目指し Atlantic Hydrogen Alliance を共同設立。同アライアンスは今後、ロードマップを作成、また、政府と協力して同分野に必要な政策・基準等を策定する計画とのこと。
- ・10 月 22 日、セントローレンス湾・カボット海峡海域(Unit 1)で 1990 年代初めからモラトリウムが施行中のアカウオ(redfish)漁について、資源回復にともなう数年後の大規模漁業再開を見据え、大西洋州・QC 州の漁業関係団体・政府は、かつての漁業枠を維持または引き上げるよう連邦政府に求める。

(3) NL 州

- ・10 月 14 日、マスカラットフォールズ水力発電プロジェクトのさらなる工期遅れ。GE が請け負うラブラドル・ニューファンドランド島間をつなぐ送電線に使用するソフトウェアの問題が解決せず 11

月 26 日完成は間に合わない見込み。

・10 月 19 日、コーディ州財務大臣は、2022 年 9 月より、砂糖含有飲料への課税を実施する予定であると発表。州内で販売される砂糖入り飲料 1 リットルにつき 20 セントを徴収する。州政府によるとこの「砂糖税」により年間 900 万加ドルの税収が見込まれるが、同税導入は 12 歳以上人口の半数以上が少なくとも 1 つの慢性疾患を抱えているといわれる同州民の健康増進が主要目的であるとのこと。

・10 月 26 日、カタールの国有企業カタールエナジーは、セント・ジョンズから 450km 東方沖のフレミッシュ・パス海盆、水深 1100m の地点でエクソンモービルが現在保有する探査ライセンスの 40% の所有権を取得。カタールエナジーはエクソンモービルとのパートナーシップによりカナダのオフショア部門に初参入。カタールは、世界最大の液化天然ガス(LNG)の供給国であり、拡大する LNG 市場に対応するため、今後 5 年間で生産量を大幅に増やす戦略。

(4) PEI 州

・10 月 12 日、州政府は、州東部に 2 つのバス路線新設。運行は T3 Transit が請け負い、それぞれ Souris, Georgetown とシャーロットタウン間を結び平日 1 日 3 往復、1 回乗車運賃は 2 加ドル。州政府は、今後はモバイルアプリ Kari を使ったオンデマンドサービス、州西部路線新設により、州全域をカバーする公共交通システムを整備予定。

・10 月 14 日、カナダ食品検査庁(CFIA)によると、州東部のロロ・ベイを生産拠点とするアクアバウンティ(AquaBounty, 米企業)社による遺伝子組換えサーモン「アクアドバンテージ (AquAdvantage)」は、カナダ国内で既に流通販売可能な状態。アクアドバンテージ・サーモンは、遺伝子組換えでないアトランティックサーモンに比べより早くより大きく成長するといわれ、国内では遺伝子組換え表示義務がない。

(5) NS 州

・10 月 13 日、州内 4 ミクマク・コミュニティ(Acadia, Annapolis Valley, Bear River and Glooscap)は、連邦政府公認で「生計を立てるための漁業」を開始すると発表。同漁業について、今年 6 月に別のミクマク・コミュニティ Potlotek が NS 州で初めて連邦政府と合意を締結したのに続くもの。

・10 月 20 日、州政府は、賃貸住宅の家賃値上げ率上限を年間最大 2%とする、前自由党政権により施行された暫定措置の期間を 2023 年末まで延長すると発表。また 1100 戸のアフォーダブル住宅建設のため 3500 万加ドル、ホームレス支援のため 1000 万加ドル支出を発表。

・10 月 22 日、カルガリーのアルタガス(AltaGas)は、子会社のアルトン(Alton)が進めていた州内の天然ガス事業を売却。同プロジェクトは、ハリファックスから北東 60km に位置するアルトンに天然ガス貯蔵ドームを地下に建設し近くの天然ガスパイプラインに接続するというもの。近郊の川の水質汚染を懸念する地元ファーストネーションの反対でプロジェクトは中断していた。

(6) NB 州

・10 月 13 日、小型原子炉(小型モジュール炉(SMR))開発企業 ARC(セントジョン)は、ポワンル

プロー原子力発電所に建設を目指す SMR1 号機とは別に、原子炉から発生する高圧蒸気を使ってアンモニアや水素を製造するための施設候補地を探しているとの報道。

・10 月 19 日、米プライベート・エクイティ企業 ACON Investments は、州東岸のロブスター加工業者 2 社(Suncoast Seafood , Raymond O'Neill & Son Fisheries)を買収。ACON 社の NB 州進出は、沿海州に複数のロブスター加工会社を保有する QC 州のプライベート・エクイティ企業 Chaplain Financial 社が最近売りに出したと報じられる水産事業に関心があるのではないかとの憶測。

[在モンテリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン読者登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン読者登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モンテリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下の URL をクリックすると閲覧いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（www.kantei.go.jp）

外務省ホームページ（www.mofa.go.jp/mofaj/）

在カナダ日本国大使館ホームページ（www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館ホームページ（https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館 Facebook（www.facebook.com/JapanConsMontreal）

当館 Twitter：@JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モンテリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■